

大田区自立支援協議会だより

編集・発行
共同事務局

大田区自立支援協議会
大田区福祉部障害福祉課

〔電話〕 03-5744-1700 〔FAX〕 03-5744-1555

大田区立障がい者総合サポートセンター

〔電話〕 03-5728-9133 〔FAX〕 03-5728-9136

第11号 平成28年3月

「大田区自立支援協議会」は、障がい者及び障がい児の地域における自立した生活を支援するため、相談支援事業をはじめ、地域の障がい福祉の課題について具体的な検討を行うことを目的として区が設置しています。協議会委員は、障がいのある方や障がい福祉に係わる様々な分野の関係者で構成しています。

『1年を振り返って ～東京都自立支援協議会とのつながりについての考察～』

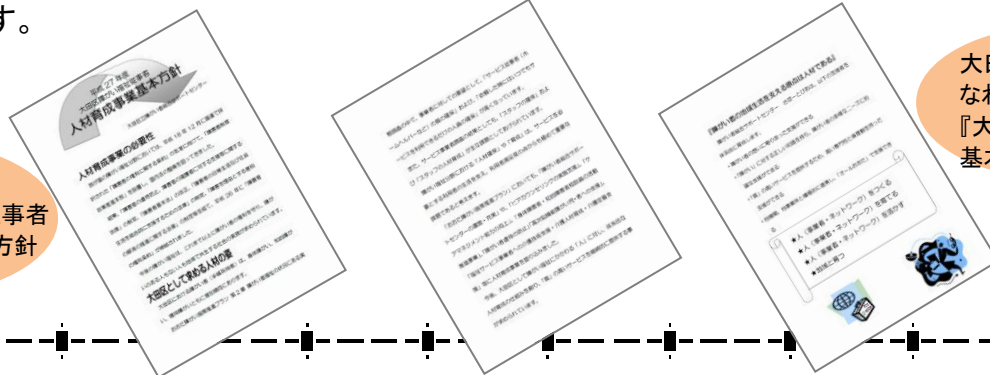
障がい者総合サポートセンター 次長
内藤 禎一

大田区自立支援協議会の皆様には、今年度も各部会を中心として障がい福祉の課題について検討を進めていただいていることに感謝申し上げます。私も事務局の一員として、相談支援部会、就労支援部会のふたつの部会に参加させていただいていますが、毎回、委員の皆様の熱心な討議内容を聞きながら、障がいのある方々が、地域で安心して暮らしていくことができると心強く感じているところです。

さて、私は東京都の自立支援協議会にも行政側の委員として参加していますが、東京都の協議会の今年度のテーマは、『相談支援専門員を中心とした地域の相談支援体制を考える』というものでした。どのような人材を育てていくのか(相談支援専門員の持つべき力量)、どのように人材を育てていくのか(育成方法やスーパービジョン体制)、どのように支えあっていくのか(地域の相談支援体制の整備)について、検討を重ねてきました。8月に実施した地域自立支援協議会交流会では、話題提供として、障がい者総合サポートセンターから「基幹相談支援センターにおける人材育成」について報告しています。また、12月には、「求む！こんな支援者」というテーマで、障害児(者)相談支援の充実を図るための自立支援協議会セミナーも開催されています。東京都も大田区も、当事者にとっての相談支援の重要性や相談支援専門員の人材育成については、今日的課題として捉えているところです。

障がい者総合サポートセンターでは、平成26年度に策定した「おおた障がい施策推進プラン」で示した人材育成事業の推進に向け、基本方針を定めました。サービスを必要とする障がいのある方の生活を支えるために、「質」の高いサービスを継続的に提供できるよう福祉人材を体系的に育成する仕組みとして研修計画を策定し実施しているところです。

平成28年度も、障がいのある方々が、安心して暮らしていくことのできる取り組みを進めてまいります。引き続き、自立支援協議会の皆様には、障がい福祉へのお力添えをいただきますようお願い申し上げます。



平成27年度
大田区障がい福祉従事者
人材育成事業基本方針

大田区HPでご覧
いただけます。
『大田区 人材育成事業
基本方針』で検索！

★ 各部会の「つながり」紹介 ★

それぞれの部会から『つながり』をテーマに今年度の振り返りと来年度の展望などを紹介させていただきます。



地域移行部会

平成27年度新設の地域移行部会は、旧年度に他の部会で委員をお務めになられていた方や新規に参画した方も含めて、新たに設定された課題に向きあってきました。さしあたり「地域移行とはなにか？」という、そもそも論の討議を深め、方向性の確認と次年度以降を見据えた動きの検討を行いました。

「戻す仕組み・支える仕組み」をキーワードに三障害の地域生活や地域移行の実践例の考察を深めました。また同時に、テーブルの素地がない中での取り組みだからこそ、いわゆる個別支援会議の手法を使った課題の洗い出しのあり方についても検討を行うことも出来ました。

次年度は、今年度の議論しっかりとつなげていくことが求められるでしょう。その際、学習会で学んだように、障害者権利条約は特にこの部会が向かうべく方向性を示してくれています。

自身は、今年度からの参画ということで、いろいろと皆様に手助けをしていただきました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。自立支援協議会が、官民のつながりの中で、地域の課題に向き合う意義は大きいということに関わったからこそ実感できた1年でした。皆様、お疲れ様でした。

山田 悠平委員

就労支援部会

就労支援部会では、今年度、「おおた障がい者施策推進プラン」の就労に関する中間報告の点検・評価に力を入れて参りました。推進プラン進行管理について「Plan（計画）」「Do（実行）」「Check（評価）」「Act（改善）」の手順で、毎年計画的に行われることになり、協議会の評価の役割がより重要になっています。

今年度の推進プランの点検・評価では、特に高次脳機能障がい者への支援やネットワークづくりに関して話し合いが行われました。このようにして、徐々にですが、就労支援が不足している障がいの課題を共有し検討を進めています。

また、大田区の就労支援部会は、遅れている精神障がい者の就労支援の充実とネットワークづくりから始まりました。その中でスタートした大田区内での「精神障がい者の職場体験実習」は、今年度より自立支援協議会から独立し実行委員会を組んで行うようになりました。体験後の実習報告会は、110名の人が集まり盛況に開催されました。

さぽーとぴあの大田区障がい者就労支援センターを中核(事務局)に、それぞれの障がい者支援機関がつながり、協力し合いながら就労支援を進められると良いのではないかと思います。就労支援部会も時には機関間のネットワークづくりのお手伝いをしながら、障がいがある人もない人も誰もが社会参加できるように努力して参ります。



大内 伸一部会長

防災部会



障がい者の防災を考える上で「つながり」という言葉は、とても大きな意味を持ちます。災害時に命を守るため、そして被害を軽くするためには、各個人の近隣住民、支援者、仲間、防災関係機関との「つながり」を築き、迅速で適切な支援を得ることが必要です。そして防災部会でも、各障がい者団体や事業者、大田区防災課、障害福祉課、各施設はもちろん、消防署、警察などの防災に直接関わる公の機関に参加していただき、また、区内の防災訓練に部会としても参加することで、地域住民からの理解を期待し、「つながり」を強くすることを目指しています。それらの「つながり」によって、障がい者の防災力の向上を図ります。

栗田 修平部会長

こども部会

「こども」に関わる様々な「おとな」が集まったこども部会。参加者全員が同じ地域で真面目にそれぞれの役割を担い、頑張っています。その交感と連携とそれぞれの取り組みの反映がこれまでの成果です。



うまくいかないこと、手が届かないところもたくさん見えてきました。

福祉サービスのあり様の変化も、特別支援教育の進展もある中、もっともっと「こども中心」を打ち出す覚悟を固める時だなと思います。

「なんで?」「どうして?」「じゃあ、どうする?」

全てのこどもにとって安心な地域づくりを、その全てのこどもが地域づくりを継いでいけるように、さらにつながりを求め、広がり、すすめ! こども部会!!

志村 陽子部会長

相談支援部会

相談支援部会では個別支援会議を行い、どうしたらその人らしく、希望する生活が送れるのかということを保護者、行政、弁護士、相談員、支援員など様々な立場の人たちが集まり、検討を重ねてきました。1年間部会に参加して、相談支援における「つながり」の大切さを感じることができました。その人が様々な人とつながることによってある資源同士がつながり、手を取りながらサポートすることができると思います。



そんな「つながり」を大切にし、『本人が主人公!』のスローガンを今後も目指していきたいと思っています。各部会との連携も課題に挙がっていますので、協議会内でのつながりも大切にしていきたいと考えています。

国井 剛委員

だれもが地域で自分らしく安心して暮らすためには — 障害者権利条約に関する学習会 — 報告

- 主 催** 大田区自立支援協議会 大田区
- 日 時** 平成27年12月22日(火)
13:00～15:00
- 参加者** 110名 うち 協議会委員9名
ほか、当事者、家族、支援者、区職員等
- 会 場** 障がい者総合サポートセンター
5階多目的室
- 講 師** 田中 正博 氏
(全国手をつなぐ育成会連合会統括・
内閣府障害者政策委員会委員)



当日の会場の様子

内 容

当学習会は、平成28年4月から障害者差別解消法の施行が控えていることから、まずはその法整備のもととなった障害者権利条約の基本理念を、改めて学んでみるという趣旨で開催しました。

大田区自立支援協議会と大田区が協働して主催し、講師の田中氏には障害者権利条約に関して、具体的なお話を含めた幅広い内容を、わかりやすくお話いただきました。

参加者からいただいたアンケートでは、8割以上の方からよく理解できた・参考になる、などの回答をいただきました。

様々な立場の方にご参加いただくことができ、障害者差別解消法施行に向けた地域理解のための大きな一歩となりました。今後も、関係機関とつながり、協働しながら、区内に広く周知していきたいと考えています。

〈編集後記〉 編集委員それぞれが今年度を振り返り、『今年度の一文字』を考えました！！

『縁』 色々な立場で集まる協議会での「ご縁」があちこちで化学反応を起こしていくのだ！

(編集委員S)

『笑』 どのような状況でも屈せずになやかに生活したい！それならこれしかない、笑顔で行こう！！
...そのような一年でした。

(編集委員I)

『始』 今年度新たに地域移行部会が発足しました。また何事も「始め」なければ何もできないという意味でも「始める」ことができたのでこの文字にしました。

(編集委員S)

『希』 支援を必要としている人が「希(ねが)う、希(こいねが)う」ことを実現するために繋がる大変さと素晴らしさ・・・実感中。

(編集委員K)

『柔』 いろいろな新しいことをやり、新しい出会いがありました。頭を「柔」軟に、物腰「柔」らかくを心掛けた一年でした。

(編集委員K)

『実』 理想ばかりを言っても始まらない。理想を実現するためにはいかに具体的に実行するかが実は一番難しいと実感した一年でした。

(編集委員S)

『展』 様々な事業を「展」開する拠点施設であるサポートセンターの開設と自分自身も現状より発「展」できるようにこの一文字を選びました。

(編集委員K)